

風

Aブロック 全作品と講評

www.columnland.net/

にて作者さん&読者さんの声実況中

紙飛行機

小さいころ、父はよく紙飛行機を作ってくれた
それはいつも風を切ってよく飛んだ

人生は紙飛行機だ

こどものころは両親に守られ、
将来よく飛べるように育てられた

今、その紙飛行機は両親の手から放たれた
まだ知らない青空に向かって

どんな風も乗り越えていくだろう
あの父の紙飛行機のように

なんかきこえてくるわ

こえがきこえてくるわ

みんなのひそひそばなし

かぜにのってきこえてくるわ

ぜんぶぼくのわるくちみたいや

そんなことありえへんねんけど

なんかはながむずむずするわ

愛する君へ

久しぶり、元気にしてた？

「お前のために一年待つよ」

って言った日から一年たったね

覚えてる？初めて海行ったとき

お前は何かしないから沈黙が続いちゃったね笑

今でもお前に告白したときの夜覚えてるよ

あの時ちょうど満月で、風が吹いていたね

お前が俺をひたすら拒んだとき

風が俺を通り過ぎるような感じがしたよ

そうお前は俺にとって「風」

ふと俺の前にふとあらわれて

俺の心を奪って俺の心と関係なく

すっとお前は俺の目の前から消えてしまったね

お前はつかみどころのない存在だったよ

よかったら俺にチャンスをください

明日のあの公園の本の下で

お前が通り過ぎるのを待っているよ

そして俺はこの手紙をポストに入れた帰り途中
やけに風が強く吹いているのを感じた

偏西風

偏西風の偏り具合が好きだ。

いつも西から東に吹いていることは誰にでもできるわけじゃない。

そのおかげで日本からアメリカに行く場合はちよつぱり早い。

代わりに戻ってくるときは若干遅い。

たまに偏り具合がずれて、

低気圧が発生したりして、

梅雨の原因にもなるところがにくい。

それが偏西風の良さだ。

だから自分も偏るならば、偏西風のようになりたかった。

自分を曲げず、努力を継続し、時にはきまぐれでふらふらしたり。

偏西風のように周りに影響を与えるほど、立派に偏れると思っていた。

だが実際は一つの事を続けるにしても惰性で過ごしている。

大したことはできないし、これからも特に何かする予定はない。

それでも毎日が忙しく感じるのは、もうすでに充実しているんだと思う。

自分が思っている以上に偏り続けるというのは辛いのかもしれない。

本当に好きだからとか、気づいたらいつのまにかとか、

そのぐらいの気持ちでないと偏るなんてできないのだろう。

そう考えると、やはり偏西風は大したものだ。

なにせただ単に西から東に吹くことが好きなのだから。

それだけなのに、大きな影響力を持っていて、周りに注目されている。

自分にはとてもできない。偏ることは難しい。

突風

私は全力疾走している。今の私にはもう、こんなことぐらいしかできない。だから全力で疾走する。

彼は私の親友である。会社の同僚だった。家が近くいつも帰りに一杯やっていた。仕事の話、馬鹿な話、ゴルフの話、ダイエツト器具の話など酒が入ったらなんでも話した。あのころは毎日本当に楽しかった。

しかし彼の方が先に出世した。彼は上司になった。私はリストラされた。会社のお金を使い込んだのだ。ストレス発散だった。が、ばれた。彼が密告したのだ。私は彼を恨んだ。殺してやりたかった。彼は、悪いことは悪いと私に言い、それから一緒に会社に頭を下げた。私は彼の優しさに気づけなかった。そしてまた、使い込んだ。

私は駅のトイレの清掃の仕事に就いた。毎日デッキブラシとスッポンを肌身離さず持っていた。今日担当のトイレは見慣れている。前の会社がある駅だった。いやな予感がした。

彼だ。私は電車を待つ彼の後姿を見つけた。そのシルエツトのてっぺんから生えた一本の毛。彼に間違いなかった。それと同時にアナウンスがこだました。

「急行列車通過いたします」

何している。下がれ。早く下がれ。もつと距離をとらないと。いつもそうしていたじゃないか。

いつも細心の注意を払っていたじゃないか。そんなところにいたら、そんなところにいたら。

私は確信した。これは彼にとって最大のピンチ、そして私にとって最後のチャンスであることを。

走る。守るために、走る。

私は彼の後方までたどり着くと、振り上げた右手のスッポンを彼の頭にくつつける。と同時に急行列車がものすごい突風を巻き起こしながら通過する。私の唇は突風でバロバロ震えた。

キューポン。列車が通過した後、私は恐る恐るスッポンをひっぱった。てっぺんに生えた一本の毛は無事だった。私は急行列車の突風から彼の本を守ったのだ。大事な一本を守ったのだ。スッポンをかぶせることによって。

「やっぱりきみだったか。きっと来てくれると思っていたよ。ありがとう。」

彼はいつもと変わらない穏やかな表情で言った。

「今日一杯どーだね、フーグ田くん。」

私は精一杯の笑顔で応えた。

かぜ

ウ
クライナや

イ

ン

ド
など、いろいろな場所で吹きます。

秋のことです。木のかみさまは言いました。

「寒いじゃない、冷たい男は嫌われるわよ」

風のかみさまは何も言わずに、寂しく去ってゆきました。

冬のことです。木のかみさまは言いました。

「酷いわ、葉っぱを全部散らしてしまっ」

風のかみさまは何も言わずに、冷たく去ってゆきました。

春のことです。木のかみさまは言いました。

「ああ、新しい葉がたくさん！あなたは命を運んでくるのね！」

風のかみさまは何も言わずに、暖かく去ってゆきました。

夏のことです。木のかみさまは言いました。

「お礼をするわ、あなたのための木をつくるの」

風のかみさまは何も言わずに、穏やかに去ってゆきました。

秋のことです。木のかみさまは言いました。

「見て、見て、綺麗でしょう！」

風のかみさまは何も言わずに、嬉しそうに去ってゆきました。

真っ赤な落ち葉とともにして。

楓

「あなた！お父さんが！」

この電話を聞いて、仕事場から急いで父の入院している病院へ出発した。私の父が末期の癌だと告知されて八ヶ月。

当初の医者告知よりも父は長生きして、私は父の最期の為にできる限りのことをしたつもりだった。

しかし、

本当に父と親孝行をしたのか？

その時になって急にその疑問が私を襲った。

父は私が苦しいときもずっと優しく見守ってくれて、助けてくれた。

しかし、私は父の癌には何一つ助けることもできず

ずっと父が苦しんでいく姿を見る事しかできなかった。

しかも、最期の時まで私は父のそばにいてあげることができなかった。

そういう私の姿に対して、反感を示すかのように冷たい嵐の風が私に向かって吹き付ける。

そう考えているうちに、病院へついた。

すでに冷たくなった父の体が目の前にあった。

妻が気を使ってくれて、私と父と二人にしてくれた。

父の冷たい体と風が窓にぶつかる音が一層私の心を冷した。

「親父ごめん！」

そう泣きながら父の体にうなだれる私に差し伸べられる妻の暖かい手が唯一の救いであった。

風のない世界

風がなければどうなるだろうか？

物理的にどうこうとかわよくわからないけど

亜麻色の長い髪はなびかないだろう

凧もあがらないだろう

団扇の売り上げも激減

風見鶏もひまであろう

又三郎も転校してこなかっただろうし

秋川雅史は紅白にでれなかったかもしれない

そしてナウシカもふるさをなくしてしまう

やっぱり風は必要である

他の星に風はあるんだろうか？

もしないんなら地球にうまれてよかったー

暖かい風が通りぬけ

真上から見下ろす川面には

無数の花びらが浮かんでいる

手から零れた

記憶のカケラ

風に乗り

日に透ける

キラキラ水面が輝く

ゆらゆら花びらが揺れる

さわさわ風が吹く

ひらひら記憶が舞う

キラキラ

ゆゆゆ

さわさわ

ひらひら

ゆゆゆ

さわさわ

キラキラ

ひらひら

ゆゆゆ

さわさわ

俺の夏

私は横浜にある公立高校に通う2年生。サッカー部のマネージャーをしている。

今日は、部のキャプテンのマコト先輩と二人っきりで花火大会へ行くことに成功した。この日のためにずっと前からいろいろと準備をしてきた。今着ている浴衣もその一つだ。白地に水色の模様が涼しげで気に入っている。対する先輩は半ズボンにTシャツというちょろラフな格好・・・まあそこは我慢！なんていったって二人きりなんだから。そして、待ちに待った花火が始まった。

「わあー！すごくきれいですね、先輩！！」

先輩は返事を返さずに、ただまっすぐ次々にうち上がる花火を見ていた。でもそんな先輩もすてきだ。先輩の横顔を見ているだけで、十分。

周りを見渡すと、たくさんのカップルが手をつないだり、肩を組んで楽しそうに騒いでいる。うらやましい・・・。私も先輩に近づきたい。

「先輩、服に何かついてますよ。」

胸元に手を延ばして、枯れ草をとってあげる。

「おう。」

先輩つめたいな。なんだろう・・・私に興味ないのかな。私こんなに好きなのに・・・。

「先輩！つめたすぎます！どうして？好きなのに。」

しまった。つい言ってしまった。

「え・・・ちよつ、ちよつと待って・・・。俺、男に興味ないし・・・。」

私の心に、少し早めの秋の風が吹き込んだ。

風と

あなたと

風よ、君は

また、あの日と同じに

緑をゆらして

私の隣を通り抜けて

風よ、君は

あの日も

私と彼の間に花吹雪を作って

桜の木をなでて

出逢ってから時がたって

夏嵐が荒れても

紅葉が空に舞っても

木枯らしが松をふるわせても

二人はずっと

想い合っていたはず

なのに

あの日、彼が出した結論は

二人を幸せにするものなの？

二人の間を通り抜けて

風よ、君は、知らんぷり

風よ、せめて

このエメラルドのホールで

風よ、さみしい私と

一曲だけ、ワルツを

風よ、君は

花粉症の彼を、今日も

悪気無く苦しめて

煩わせているの？

別れた二人にも

同じ風が、流れているの？

風よ、君が

花弁を散らせて

撫でた樹を茶色に

変えてくれるというのに

私の恋心は

まだ枯れない

風よ、せめて

快晴の今日

私の足元の、数滴のしずくを

頬をつたう雨粒を

どうかはやく

どうかはやく

乾かして欲しい

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	紙飛行機	4 pt	8 位	0 sp
		人生は紙飛行機だっ！ ちょっとムリヤリなたとえが、かえって青雲の志のすがすがしさに似つかわしくて、好印象。 起承転結、きれいに整えられた、とても折り目正しい飛んでいけ！表紙でした。		
A02	なんかきこえてくるわ	5 pt	7 位	1 sp
		うんわかるわかる。疑心暗鬼のその気持ち。あるよね～、そういうことって。 共感度大の状況を、ピュアに投げ込んで、インパクト大。 ご提供は短フレーズ名手として定着しそうな、かの「すきやき」さんでした。 特別賞：朗読しま賞（イントネーションが分からないので、お手本を見せてほしい） イチオシフレーズ：「なんかはながむずむずするわ」× 2		
A03	愛する君へ	0 pt	10 位	0 sp
		募る思いを風に託して、あたかも「千の風になって」♪		

		フォントともども、しっとり伝わってきます。 語りかける相手は亡き人なのでしょうか、それとも風そのもの？		
A04	偏西風	9 pt	5 位	0 sp
		偏西風もすてきだけれど、そんなへそ曲がり注目したへそ曲がり作者さんは、もっともっとなすてきです。 流されずに、がんばって偏ろうぜ！ メッセージとして読みました。		
A05	突風	15 pt	3 位	0 sp
		わはははは。とても、ここちよくダメされました。ブラボー。 波平さん、もはや国民的アイドルですね。ブロンズメダルともども、イチオシフリーズ大賞もお持ちくださいませ。おめでとう!! イチオシフリーズ：「唇は突風でバロバロ震えた」×3 「キュッポン。」 「フーグ田くん」×2		
A06	かぜ～ウインド	7 pt	6 位	6 sp
		地名で揃えた一発ワザ。 インパクトはあるけれど、レイアウトはもっときれいに組めそうです。 でも、この思い切りの良さが注目されて、最多特別賞タイでした、おめでとう。 特別賞：力技賞（そこまでウインドを使ったかったのか！？） アイディア賞 手抜きで賞（インド！） ウクライナ国民栄誉賞（大胆、ざ		

		んしん) てぬきで賞(ここまで堂々としている とインパクトあった) 上手く手を抜いたで賞 (シンプル)		
A07	楓	16 pt	2 位	1 sp
		四季に託してゆったりと展開するメルヘンス トーリー。 ひとこともセリフのない風のかみさまのシャイ ぶりが、奥ゆかしくって、かわいい！ その通りに奥ゆかしく 1 票差の銀メダルでし た、おめでとう!! 特別賞：よくひらめいたで賞(木+風=楓)		
A08	ある嵐の夜	0 pt	10 位	0 sp
		心に吹き付ける冷たい風。悲しみの心情描写と して、よく効いています。 冷たい、という体感としてまとめたところが、 伝わりやすさですね。 さいごの、いきなりの妻登場は、もっとなだら かにつながられると良かったか。		
A09	風のない世界	17 pt	1 位	0 sp
		もし〇〇がなければ、は思考実験の定番。 その、お約束通りに並べて、ネタ尽くして賑や かに。他にないアイデアが抜け出るポイント でしたね。 僅差で首位奪取、おめでとう!! 賞品のメープルクッキーをお茶会でみなさんに 分けていた、とてもやさしい作者さんが印象的 でした。		

		イチオシフレーズ：「又三郎」「地球に生まれてよかったー」		
A10	無題～十五点のテスト	14 pt	4 位	0 sp
		うわあ、やられたあ！。 ゆらゆらキラキラ、思いっきりきれいな光景を見せておいて、ずどおーん。 瞬間風速のすさまじさにブラボーです。 イチオシフレーズ：「記憶が舞う」		
A11	俺の夏	3 pt	9 位	6 sp
		そんな、当然の（？）ロスト・ラヴ。 浴衣という伏線がミスリードとして効いてますが、種明かし、もう少し自然なセリフだと、なお良かったか。 でも、あっちこっちで議論が盛り上がって最多特別賞タイでしたよ、おめでとう！ 特別賞：男女心（おとめごころ）賞（測り知れないものがあつた） 4 位賞（3 位と競った結果）先輩が女だったらおもしろいで賞（一番議論が盛り上がった）恋愛に性別は関係ないで賞（青春っていいね！）キモイで賞（まさかの男オチ タイトルの位置が低めだから目に入りにくくていい）ホモで賞（最後の 2 行がみんなの心をつかみました） イチオシフレーズ：「俺、男に興味ないし・・・」× 3 「おう。」		
		0 pt	10 位	1 sp
		ラストは爽やかに風に散った恋。		

A12	風と あなたと	問いかけを重ねることで、せつなさがじわじわ広がってきます。 通り抜けるものとしての風に、さいごで涙を託した終わり方もワザアリで、エメラルド色の、とてもきれいなポエムでした。 特別賞：歌詞賞（歌詞っぽく、がんばった）
-----	---------	---

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	神風特別攻撃隊	11 pt	3 位	1 sp
		こちらも飛行機で発進！ 仕掛けのおもしろさ、それはもちろんなのですが、「どうか家族をお守りください」に強いメッセージ性を読みました。 「祖国を」ではないのですね。そこ重要ポイント。 ブロンズメダルとともに、イチオシフリーズ大賞ゲットです、おめでとう!! 特別賞：哀川翔（賞 男気溢れてるから!!） イチオシフリーズ：「神風特別攻撃隊」× 2 「神よ、どうか家族をお守りください」「風が止んだ」× 2		
B02	風のパワー	3 pt	8 位	0 sp
		実体験でしょうか。 記憶のなかに、ぽつりと存在する風速25メートル体験。そのポイントが効いているので、行ってみたいなあと読み手に思わせてくれます。 最終行、「私は好きだ」と感情で終わらせず、ロジ		

		カルに締めると、もっとその思い出も活きたのでは。		
B03	風ってさあ	9 pt	5 位	7 sp
		小学生に聞かれたら、どう答えますか、お兄ちゃん？ 思いつきっぽくて、でも深い（かも）な、ユーモラスな問いかけでした。 案の定、その勇気をたたえて特別賞の大ラッシュ、ぶっちぎりの最多特別賞でした、おめでとう!! 特別賞：風ではないで賞 川部賞（ぼくが良いと思った） 勇者で賞（レギュラーだったらつよすぎるから） あほっぽいで賞（他の作品がまじめな中、一つだけ浮いてるので賞をあげたかった） 愉快で賞（くだらなさ） インパクト賞（おならのインパクト） ユーモア賞（ユーモアあふれて個性的な作品だから） イチオシフレーズ：「おならって風なのかなあ？」×3 「おなら」		
B04	風が吹くと桶屋が儲かる	14 pt	2 位	2 sp
		ちょっと（いや、かな〜り）ブラックなオチ。 前半、軽妙な会話のやりとりでテンポ良く展開してきて、いきなりブラック独裁者、という落差が、飽きさせないシュールな流れになっています。 しぶくシルバーメダル、おめでとう!! 特別賞：上手い賞（3位の次に人気があったから） 妙な風の吹きまわしで賞（話の流れが変（笑）） イチオシフレーズ：「風に吹かれて気の変った独裁者が、ミサイルのボタンに手を伸ばす」		
		2 pt	11 位	0 sp

B05	人格の形成	「空気のメモ用紙」というオリジナルな比喻が、とてもいいな、と読みました。 ただの自然現象が、人の思いを乗せる「器」に変わってゆく感じ。うまくつかまえてます。			
B06	少年時代	<table><tr><td>2 pt</td><td>11 位</td><td>0 sp</td></tr></table> 主人公は「せんぷうき」さん。 回しても、ぬる〜い風が来るばかり。 静けさのなかでの暑さ、けだるさが漂ってきます。 思い出の1シーンだったでしょうか？	2 pt	11 位	0 sp
2 pt	11 位	0 sp			
B07	風よ、吹け！	<table><tr><td>7 pt</td><td>7 位</td><td>2 sp</td></tr></table> 未来へと、たくましく帆を上げて。 さあ行くぞ！感が、びしびし伝わってきます。 敢えて、具体的な目標を掲げていないところも、ピュアで清冽な印象でした。777おめでとう！ 特別賞：集英社賞（ジャンプのワンピースにこんな場面があったような。） ルフィで賞（ワンピースっぽいから） イチオシフレーズ：「風よ、吹け！」×2	7 pt	7 位	2 sp
7 pt	7 位	2 sp			
B08	ある日の昼下がり	<table><tr><td>10 pt</td><td>4 位</td><td>2 sp</td></tr></table> 「空はキャンバス（←注意!）」という比喻が効いてました。 空の雲、海の波、なんだかずーっと眺めていたいもの。その無心な気持ちを「幼さ」へとつなげて表現したことで、ふうわりメルヘンテイストの仕上がりです。 特別賞：ミスチルで賞（ミスチルflavorがする!!） どんだけひまなんで賞（ベランダでぼーっとしてるから。でもネトゲ廃人よりはましだよね）	10 pt	4 位	2 sp
10 pt	4 位	2 sp			

B09	「かぜ」	9 pt	5 位	0 sp
		子どもって無邪気で残酷。 その両面を会話であざやかにあぶりだしていただきました。 読後感、せつないですね。 イチオシフレーズ：「本当！ゼッタイだよ、ゼッタイ！やくそくだよ！」×2		
B10	百面相	3 pt	8 位	0 sp
		音の多様さに耳を澄ませる展開にしたおかげで、感性のゆたかさが伝わってきます。 ラスト、聴覚の世界を視覚的な「顔」にたとえるところが、よりスムーズだと良かったか。		
B11	恋風	3 pt	8 位	0 sp
		ちょうど、今の季節の気分。 爽やかに吹き抜ける初夏の風さながら。 ただ、「気持ちよさ」をそう書かずに表現するの が、ポエムの使命でもあるので、よりユニークな表現を探してみるとよいのでは。		
B12	風の贈り物	17 pt	1 位	1 sp
		香り、音とつなげて、人生そのものが風頼み、風まかせなたんぽぽの一生をさらりと。 人、ではない視点に立ったとき、同じ自然現象でもずいぶん変わるなあと、小さなたんぽぽになった気分 に誘ってくれる、絵本気分な今週の読み納めでした。 風吹く野原にほっこり咲いたゴールドメダル、おめでとう!!! 特別賞：びっくり箱賞（伏線のはりかたに賛否両		

		論！)
--	--	-----